

問1 コップに水を入れて部屋においておくと、何日かたったあとに水のかさがへっていました。これは、水がどうなったからですか。

問2 水がふっとうしているとき、水の温度はおよそ何℃になりますか。

問3 氷や鉄のように、かたまりになっていて、自由に形を変えられない^{じょうたい}状態のことを何といいますか。

問4 水が空気中に出ていく量と、水を置く場所のあたたかさ（温度）には、どのような関係がありますか。

問5 熱せられた水が100℃近くになり、さかんにあわを出しながらわき立つことを何といいますか。

問6 水が冷やされて^{こお}凍り始めるときの温度は、何℃ですか。

問7 水を入れたコップにふたをしておくと、中の水の量がほとんど^へ減らないのはなぜですか。

問8 次のうち、かたまりになっていて、自由に形を変えられない「固体」の例はどれですか。

問9 空気の中にある^{すいじょうき}水蒸気が、冷たいものにふれて冷やされ、^{すいてき}水滴になってつく^{げんしやう}現象を何といいますか。

問10 水が冷えて^{こお}凍り、氷になるとき、水の体積（かさ）はどのように変化しますか。

問11 次のうち、目に見えない「気体」のなかまはどれですか。

問12 水を熱し続けると、水がじょう発して空気中に出ていきます。このとき、入れ物の中の水全体の量はどうなりますか。

問13 気体である^{すいじょうき}水蒸気を冷やしたとき、どのようなすがたに変わりますか。

問14 水がふっとうしているとき、水の中はどのような様子になりますか。

問15 水を入れたコップにふたをして置いておくと、中の水の量はどうなりますか。

問16 水やアルコールのように、はっきりした形がなく、^{ようき}容器によって自由に形を変えられる^{じょうたい}状態を何といいますか。

答え合わせ・解説 No.4

問1	答え じょう発して水じょう気になったから	水は熱していなくても、まわりの空気中へ少しずつじょう発して水じょう気になるため、水のかさがへっていきます。
問2	答え 100℃近く	水がふっとうしているときの温度は、およそ100℃近くになります。
問3	答え 固体	氷や鉄のように、かたまりになっていて、自由に形を変えられない状 態 ^{じょうたい} を固体といいます。
問4	答え 置く場所があたたかいほうが、水が空気中に出ていく量が多くなる。	水は、置く場所があたたかい（温度が高い）ほうが、空気中に出ていく量が多くなります。
問5	答え ふっとう	水が熱せられて100℃近くになり、さかんにあわを出してわき立つ現 象 ^{げんしょう} を「ふっとう」といいます。
問6	答え 0℃	水は冷やしていくと、0℃になったときに凍 ^{こお} り始めます。
問7	答え 水が空気中に出ていかないから	ふたをすることで、コップの中の水が空気中に出ていくのを防 ^{ふせ} ぐため、水の量はほとんど減 ^へ りません。
問8	答え 氷	固体は氷や鉄のように、かたまりになっていて形を変えられない状 態 ^{じょうたい} のことで、水や空気は形が変わるため固体ではありません。
問9	答え けつろ（けつろ） 結露	空気中の水蒸気 ^{すいじょうき} が冷やされて水滴 ^{すいてき} になる現 象 ^{げんしょう} を「結露 ^{けつろ} 」といいます。
問10	答え 大きくなる	水は凍 ^{こお} って氷になると、体積 ^{せいしつ} （かさ）が大きくなるという性質があります。
問11	答え すいじょうき 水蒸気	水蒸気 ^{すいじょうき} は目に見えない気体です。湯気や水は目に見える液体 ^{えきたい} で、氷は固体です。
問12	答え 減 ^へ る	水を熱し続けると、水がじょう発して空気中に出ていくため、水の量は減 ^へ ります。
問13	答え えきたい 液体である水	気体である水蒸気 ^{すいじょうき} は、冷やされると液体 ^{えきたい} である水に変わります。
問14	答え さかんにあわを出しながらわき立つ。	水がふっとうすると、温度が100℃近くになり、さかんにあわを出しながら激しくわき立ちます。
問15	答え ほとんど減 ^へ らない	コップにふたをしておくと、中の水が空気中に出ていかないため、水の量はほとんど減 ^へ りません。
問16	答え えきたい 液体	はっきりした形がなく、入れる容器 ^{ようき} に合わせて自由に形を変えられる状 態 ^{じょうたい} のことを液体 ^{えきたい} といいます。